

「医療通訳英語研修」

2019年1月26日（土）実施 JGA 第一支部研修終了レポート

1月26日（土）に「医療通訳英語研修」が実施されました。講師はJGA会員で医学博士、国際医療通訳アカデミー主任講師でもある中村春木先生をお迎えして行われました。寒い中、参加者は46名（会員42名、委員2名）で関東は勿論、関西、東北地区から参加された方もいらっしゃいました。

前半の講義（9:00～10:45）は、まず案内中のお客様の発病や怪我等に対するガイド側の知識の必要性が高まっていることで、それらに対応できるようにしていくのが大切であると指摘されていました。その後、「医療通訳の心得10カ条」を挙げられ、事前に外国の方の習慣や文化的な制約を聞いておくこととし、例として、ユダヤ人の輸血、イスラム人のラマダンを説明されました。「医療通訳に必要なのは」として、足さない、引かない、変えない、ことを指摘されました。その勉強法として「新聞を声を出して読み、日本語の語彙、理解力を身に着ける」「何にでも興味を持ち、なんて訳すかを考える」「広く浅く知識を吸収する」「単語帳を作る習慣をつける」を挙げられ、電子辞書を持ち歩いて常に調べ、記録しておくことが大事、だと話されました。また、通訳中でも「度忘れしたら調べる」ことが大切で、ここでも電子辞書が便利で、「医療通訳医師の立場からすると、素直に分からないことをわからないと、言ってくれる通訳者のほうが信頼できるし、わからないときに辞書を使う通訳者のほうが信用できる」と、指摘していました。

5分間の休憩の後、後半の講義（10:50～11:40）は「外国人医療の現場」として在日外国人、留学生、研修生は国民健康保険が使える（1年以上滞在が見込まれる者）等を説明されました。その後、「現場医療で通訳するための基礎用語」として病名、薬剤名、治療名等を挙げられました。さらに、内臓の各器官名を印刷物を使い詳しい説明がありました。気管支から始まり直腸までそれらの役割・病状と英語の発音もしてくださいました。病名等の発音は難しいのですが、自分の知っている語で言い換えても良い、との話もありました。その後、質疑・応答（11:40～11:55）に移り時間が足らなくなるほど質問があり、先生は、それにも丁寧に説明してくださいました。参加者からは、「大変大切なことを教えていただき気持ちが少し安らぎました。これからしっかり病名、対処法等を勉強しなければ。」と、いった声が聞かれました。

